

入門科目群の概要と目標

入門科目部門会議主査

人文学部 小林 昌二

入門科目部門には、共通基礎に位置づけられる大学学習法と個性化科目の2つの学類がある。これらは、以下に見るように、平成14年度カリキュラム改革を特色づける科目として新設された。ここでは、この両科目群が担う科目としての目的・目標を明記し、カリキュラム上の位置を明らかにする。

1 大学学習法（スタディ・スキルズ）

1年次学生に、大学で学ぶための自主学習力を涵養することに目的をもつ、少人数セミナーの形態を取り入れた科目である（他大学では、転換教育科目、接続科目、フレッシュマン・セミナーなどともいわれている）。したがって、学生が報告し、討論することなどを軸にしたり、実験・実習などが織り込まれたりするなどしながら、これらのノウハウを学びつつ、レポートのまとめ方などにも具体的な目標が向けられる。担当教員は、学部単位である。そのため入学した学生から、身近に学部教員がいない、などという不安と不満は解消される。またクラスとして、友人や仲間を得やすい場ともなる。

基本は、少人数セミナーの形態においているが、教員負担の関係から、講義との組み合わせなども工夫されている。

若干の経緯を記せば、人文学部は平成5年のカリキュラム改革で人文教養演習として1年次生に20人の少人数演習クラスを4単位で導入・実施してきている。その後平成11年度の大学教育委員会の論議において、学生が早く専門を学びたいという要求をもっていること、しかしその自主学習力の低下が感知されるようになっていたことなどにより、自学部教員がその専門への学習意欲を入学時よりすくひ上げて、基本的な学びのスキルを身につけさせるスタディ・スキルズ科目が必要ではないかという論議がなされ、12年7月の同委員会W・G報告で提案された。論議をいち早くふまえた工学部が12年度に、また歯学部が13年度に取り入れ、平成14年度には医学部を除いた各学部で導入される予定とな

って、平成14年度改革カリキュラムに結実したものである。（なお理学部は、専門科目の取り組みとして実施）である。

2 個性化科目

本科目は、新潟大学に入学した学生が1年次で自主学習力を培い、個性を伸ばす上で有益な科目について、大学教育委員会や教養教育実施委員会で検討した結果、本学の目標である「学際的地域基幹大学」とも関わる「地域」をテーマに学習し、種々の問題意識を育み、課題を探究する入門的な科目を設けることとしたものである。この科目を共通基礎に設けることにより、本学の全学共通科目（教養教育）に特色と個性を与えるものとして期待したものである。

「地域」概念における空間的範囲は、周知のように、問題や課題によって伸縮する。決して新潟県、新潟市という行政区の枠内に制限されるものではない。だがこれらを離れてもまた空虚なものとなる。重要なことは、脚下の具体的な対象を見据え、学び、問題を知り、また自ら向き合い、探究する対象として脚下照顧することにある。その立脚する場は、むろん多くの広い世界との連鎖の中にある。本地域が一環をなす環日本海地域や、あるいは本地域に類似し、また対極にある比較すべき地域などがある。いかなる地域も知的認識と同様に、問題や課題によってさまざまな連鎖の下にあることを知り、これらを交錯させ、知的訓練をすすめる立脚の場として地域を理解する科目であり、その目標は、かかるテーマへの興味と関心を涵養し、自主学習の出発点とすることにある。

1学年2500人の必修とするためには、以下の科目を要するものと思われる。

① 「入門」：100人程度を1クラスに、20クラスを。

これまでにも本学教養科目において、地域研究の理論的、実証的な成果を基にした各分野の講義等が

実施されてきたが、各系列におけるこれら科目に近い科目について、上記科目に転換する。知的理解に比重のある講義系科目とする。

② 「研究」：50人程度を1クラスに10クラスを。

本学教員が、授業のコーディネーターとなり、地域の高等教育力を引き出し、これに依拠し、現場にも出向いて学ぶ。実践的な講義や、実習的要素を基軸とした科目とする。

③ その他

今回（平成14年度）は、検討が十分でなかったため、これからのさまざまな積極的な授業創出ができるようにこの枠を設ける。